

2019年邦人被害概況

1 被害の特徴

(1) 全体的特徴

ア 2019年、在メキシコ日本国大使館及び在レオン日本国総領事館に届けられた邦人の犯罪被害件数は、115件であり、2018年の126件と比較して11件減少した。

しかし、2015年以前の件数がほぼ100件以下で推移していたことに鑑みると、依然として高い数値での推移であると言える。

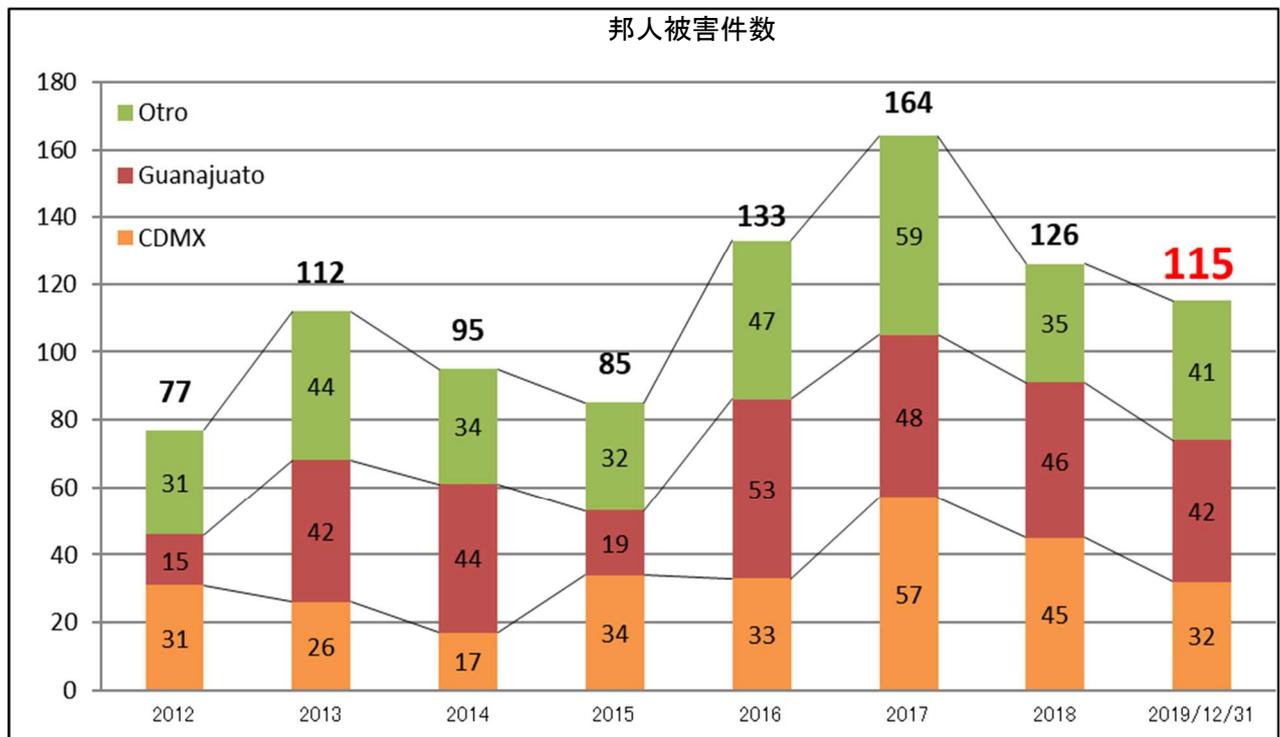
イ 罪種別では、最も多かった被害は窃盗の60件である。次に強盗被害が32件であり、窃盗と強盗で被害全体の約80%を占めている。窃盗被害は2018年の76件と比較し16件減少したが、一方強盗被害の32件は2018年より1件増加しており、強盗被害の減少が見られないことから、引き続き十分な注意が必要である。

ウ 発生地域別では、メキシコ市が32件（前年比13件減）、グアナファト州42件（前年比4件減）と、この地域における被害が全体の大半を占めている。

その次に件数が多いのがハリスコ州の10件（前年比10件増）、アグアスカリエンテス州7件（前年比件3件増）とケレタロ州は6件（前年比3件増）となり昨年と比較し被害が増加している。

キンタナ・ロー州は、昨年の14件と比べ、7件と半減した。

エ 銃器利用の車両強盗被害が急増したグアナファト州セラヤ市は、外務省海外安全ホームページの危険情報において、「レベル1：十分注意してください」が発出された。



(2) 地域別特徴・傾向

ア メキシコ市

(ア) メキシコ市における 32 件の被害の内訳は、窃盗 18 件（置き引き 11 件、すり 3 件、車上狙い 2 件、空き巣 1 件、その他 1 件）、詐欺 7 件、強盗 3 件（タクシー乗車中の強盗 1 件、路上強盗 2 件）、恐喝 3 件、発砲（人的被害なし）1 件であった。

(イ) 窃盗被害は置き引きが多くを占めている。被害場所はカフェやレストランであり、バック等を荷物掛けや床上、座席の背もたれと背中の中に置いていたところを被害に遭っている。

(ウ) 詐欺（及び詐欺未遂）被害では昨年に引き続き、シカゴ出身の米国人と名乗る犯人による詐欺被害が 4 件発生した。犯人は白人の場合と黒人の場合があるが、手口は酷似しており、「荷物を無くしてお金が無い。しかし、アメリカに帰国しなければならない。アメリカの妻からあなた（被害者）の口座にお金を振り込ませるから、そのお金を引き出して欲しい。」等と言葉巧みに被害者を信用させたうえ、さらに、「お金をうまく振り込めないのでお金を貸して欲しい。」と申し向けて現金を騙し取るといったもので、英語が話せる外国人旅行者（特に女性）を狙っているものとみられる。

また、「あなたの口座に高額な健康食品の引き落とし請求があるが、身に覚えはあるか。」等と銀行員を装って電話を掛けてきて、被害者からキャッシュカード番号及び暗証番号等の情報を聞き出し、口座の現金を不正に引き落とすという被害も報告されている。

企業に対しては、「本社の社長である、重要な取り引きを極秘で進めている、至急送金するように」等騙る詐欺未遂被害が発生した。

(エ) 強盗は、バス乗車中にけん銃所持の犯人が乗り込んで乗客を脅して携帯電話等を奪う、タクシー乗車中、信号で停車中に犯人が乗り込んできて所持品を奪う等の被害が発生した。

また、赤信号停車中に犯人がいきなり窓ガラスを殴ったうえ発砲してきたという被害があったが、ガラスにヒビが入ったのみで、負傷等はなかった。

イ グアナファト州

(ア) グアナファト州における被害は 42 件（前年比 4 件減）であった。

主な被害の内訳は、強盗 21 件（運転中等の強盗 13 件、路上強盗 3 件、その他 5 件）、窃盗 15 件（車上狙い 11 件、空き巣・ひったくり・置き引き・その他各 1 件）等であった。

(イ) 強盗被害は、車両運転中に道を塞がれる等され強制的に停車させられる、または信号待ちの停車中に犯人に銃器で脅され車両ごと奪われる被害や、店舗利用後駐車場で車に乗り込む際にけん銃等で脅される等の被害が多く、またコンビニやレストランの客を狙ったもの等が発生している。

(ウ) 窃盗は車上狙いがほとんどを占め、路上駐車時やコンビニエンスストアの駐車場利用時等に被害が発生している。

(エ) 邦人がけん銃により重傷を負う被害も発生した。メキシコ人同士のトラブルに遭遇し、助けを求めてきたメキシコ人を車内に乗せて現場から離脱しようとしたところ、相手方から発砲を受けて邦人が負傷した。

ウ その他の地域

発生地域別では、ハリスコ州 10 件、アグアスカリエンテス州及びキンタナ・ロー州が各 7 件、ケレタロ州が 6 件、オアハカ州 3 件、メキシコ州及びプエブラ州各 2 件、サン・ルイス・ポトシ州、サカテカス州、バハ・カリフォルニア州及びチアパス州各 1 件となっている。

2 被害の内訳等

(1) 届出件数

115 件（前年比－11）

本集計は当館に届け出があった件数であり、昨年に比べ届出件数は減少している。しかし、軽微な被害のために大使館に届け出をしていないケースがあることも考えられ、実際の被害件数はこれより多い可能性がある。

(2) 犯罪手口

| | |
|-----------|-----------|
| 窃盗 | 60 件（－16） |
| ※うち、車上ねらい | 23 件（－1） |
| 置引き | 16 件（－2） |
| すり | 4 件（－13） |
| 空き巣等侵入盗 | 10 件（－1） |
| ひったくり | 2 件（＋1） |
| その他窃盗 | 5 件（＋2） |

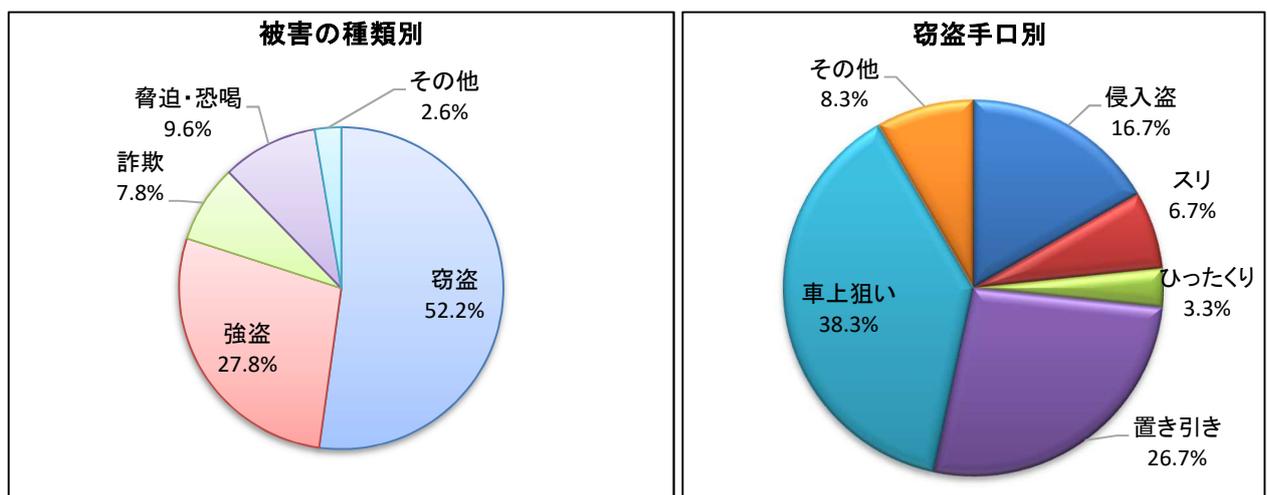
強盗 32 件（＋1）
※凶器使用 26 件（うち、けん銃使用 21 件）

| | |
|-------|----------|
| 脅迫・恐喝 | 11 件（＋9） |
| 詐欺 | 9 件（－4） |
| 暴行・傷害 | 2 件（＋2） |
| その他 | 1 件（－3） |

ア 強盗被害は 32 件であり、凶器を使用したケースは 26 件（うち、けん銃使用 21 件）であった。被害発生時間別では日中 11 件、日没後 21 件であり、夜間だけでなく昼の時間帯にも被害は発生している。被害者が負傷したケースは 7 件であり、犯人に抵抗しなくても危害を加えられるケースもあったが、抵抗した場合は生命にかかわる危険な状況となる可能性が高いため、決して抵抗してはならない。

強盗の手口としては、自動車運転中の被害が多く、また駐車場や路上での被害も多く発生していることから、移動時は十分に注意する必要がある。

イ 窃盗被害は 60 件で、その大半が車上狙いや置き引きであるが、空き巣等侵入盗も 10 件あり、犯行中の犯人と遭遇した場合は非常に危険であるため、注意を要する。



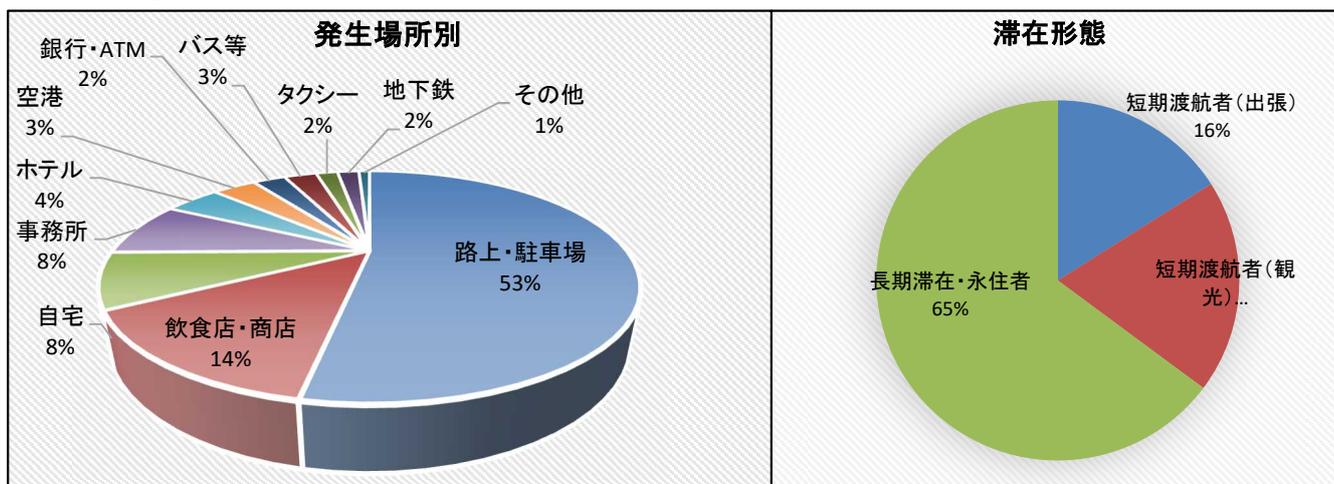
(3) 発生場所別

| | |
|--------|------|
| 路上・駐車場 | 61 件 |
| 飲食店・商店 | 16 件 |
| 自宅 | 9 件 |
| 事務所 | 9 件 |
| ホテル | 5 件 |
| 空港 | 4 件 |
| 銀行・ATM | 3 件 |
| バス等 | 3 件 |
| タクシー | 2 件 |
| 地下鉄 | 2 件 |
| 不明 | 1 件 |

(4) 被害者別（複数被害者がいる場合もあるため、被害件数とは一致しない）

| | | |
|-----------|------------|----------------------------|
| 長期滞在・永住者 | 81 名 (+2) | 男性：65 名 (+4)，女性：16 名 (-2) |
| 短期渡航者（観光） | 24 名 (-16) | 男性：13 名 (-16)，女性：11 名 (±0) |
| 短期渡航者（出張） | 20 名 (+7) | 男性：19 名 (+6)，女性 1 名 (+1) |

短期渡航者（観光）の被害件数が大きく減少している一方、短期渡航者（出張）の被害件数が増加した。



被害の詳細については、[「邦人被害一覧」](#)をご参照ください。